

YS1-4

地方公立病院のCOVID-19診療における遠隔診療・家族支援

今井 雄一郎

名張市立病院 感染症科

名張市は、三重県の北西部に位置し奈良県と県境を接する、人口約77,000人の地方都市である。当院は9診療科を有する200床規模の市立病院で、地域の医療機関と機能分担・機能連携を推進し、地域医療を担う医療機関と位置付けられている。COVID-19の診療に関しては、軽症から中等症の成人を中心に、一部小児例や重症化した成人患者の診療を行っている。また、当院を受診するCOVID-19の罹患者が増加したことに伴い、可能な場合にはオンラインによる遠隔診療、面会や病状説明を行っている。オンライン手法を用いる利点は、非接触であるため感染の懸念なく十分な時間を確保した説明や、防護服の着脱なしで繰り返し会話が可能であること、かつフェイスシールド、N95マスクも含めた防護服着用時よりも医療者の表情が感染者に分かり易い点が挙げられる。加えて、当院では原則として病棟での面会を全面禁止としているが、オンラインを介しての患者・家族間の遠隔面会は、声や表情を互いに直接確認することが可能となる。このことは、家族の安心のみならず患者自身の回復へのモチベーション維持にもつながり、非薬物的な治療の側面を併せ持つことにもなると考えられる。また、入院の長期化や経過によってはリハビリが必要となる場合もあるが、理学療法士と直接に連絡をとりつつ映像で必要な動きを確認しながら実践できることも利点である。一方身体所見の直接取得を基本とする従来行っていた診療と比較すると、例えば胸部の聴診所見から得られる悪化の徴候や、腹部の触診から得られる微細な変化等を即座に捉えきれない場合などがあると考えられ、これらは欠点と考えられる。また、隔離に加え、非接触である画面を介しての説明や会話のみでは、感染者の捉え方によっては疎外感が強まり、患者医療者間の信頼関係を構築する妨げとなり得ることにも配慮が必要となると思われる。

本シンポジウムでは当院の具体的な取り組みを紹介する。